

令和元年度（平成31年度） 県立吉田島高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
服務規律遵守・法令遵守の意識向上	公務以外における職員の個々の意識を高め、公務外非行の発生を未然に防止する。	毎朝、職員打合せ時に、管理職から全職員に対して時期に応じた事故不祥事未然防止に関する一言を継続して呼びかけ、事故を防止した。点検表等の資料による研修会で自己の行動を振り返り、服務規律の遵守を再確認した。目標を達成した。
適切な県民対応・保護者対応	学校と関わる多くの県民に丁寧で正確な対応をし、相手に誤解や不愉快な感情を生じさせない。相手と情報共有し、教育活動の理解を得る。	職場で日常的に管理職をはじめ職員同士が明るく挨拶をし、声掛けをするように努めることで、来校者や電話に適切に対応できた。特に問合せには丁寧に対応し、理解を得た。事故防止会議の自己点検を通じて意識向上を図った。目標を達成した。
行政文書事務の適切な取扱い	行政文書の取扱い（受領・收受・作成・施行・保管・廃棄）のルールを理解し、行政文書の誤廃棄を防止する。	資料により行政文書の扱いのルールを全員で確認した。行政文書を鍵のかかる場所などに適切に保存し、廃棄文書は廃棄点検表と廃棄起案により管理した。目標を達成した。
セクハラ・スクールセクハラ・パワハラ・わいせつ行為の防止	セクハラ・スクールセクハラ・パワハラ・わいせつ行為を未然に防止し、安全で安心な環境をつくる。	職員間でパワハラ・セクハラ等について、気が付いたことを声に出して言うことで、お互いがハラスメントに対して意識を高めることができた。点検シートを活用した研修を通じて意識が高まった。目標を達成した。
業務執行体制の確保	事故・不祥事が起こらない業務執行体制を構築する。	グループや年次の業務担当者を複数人配置し、一人で抱え込まない職場環境を構築した。事故不祥事防止標語を職員から募り、月間目標として職員室に掲示することで、職員の意識を高めた。概ね目標を達成した。
成績処理・進路関係書類の作成・取扱いに係る事故防止	成績処理及び進路関係書類の作成に係る事故の発生を未然に防止する。	定期試験前から誤廃棄防止について意識啓発を図り、一定期間は校内のシュレッダーを使用禁止にして個人情報情報の誤廃棄を図った。成績評価や調査書の作成について校内一斉点検日を設け、職員全員で分担して点検し、事故防止を図ることができた。目標を達成した。
体罰及び不適切な指導の防止	体罰及び不適切な指導の発生を教育現場から根絶、一掃する。	総括教諭が講師を務め、生徒理解やアンガーマネジメントの大切さを職員全員で確認した。職員同士で生徒に関する情報を共有し、適切な指導と対応に努めた。目標を達成した。
個人情報等の管理と情報セキュリティー対策	個人情報等の管理体制を確立し、情報の紛失及び流出を未然に防止する。	個人情報の持ち出しは原則行わないことを徹底した。業務上必要な場合には、管理簿を活用して持ち出し・返却を管理した。目標を達成した。
適正な経理処理	関係諸規定に沿った公費執行と現金管理を行うとともに、私費会計事務処理の手引きに従い、適切な私費会計の徴収、現金管理執行を行う。	会計担当者を対象とし、私費会計事務処理の手引きを踏まえての研修会を実施した。私費会計事務処理について、年2回のPTA監査を四半期ごとに変更することで、事故不祥事の未然防止と働き方改革を達成できた。概ね目標を達成した。
入学者選抜に係る事故防止	入学者選抜、成績処理に係る事故の発生を未然に防止する。	入試選抜業務について企画会議で改善点などを協議し、業務分担をグループごとに振分けることでより組織的に取組むことができた。事前の入選研修会で過去の事故事例をもとに事故防止の意識をより一層高めた。目標を達成した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規を遵守し、交通事故を未然に防止する。	点検表を用いて日常の場面を想定した交通法規を確認した。飲酒が増える時期はもとより、普段より当日の飲酒運転とその翌朝について、絶対に運転しないよう徹底した。概ね目標を達成した。
諸手当の適正な受給	公務員の自覚を持ち、適正な諸手当の申請と受給をする。	点検表による研修を実施した。職員の勤務整理簿で、出張の復命に押印を義務付けて意識の向上を図った。特殊勤務簿の申請時に勤務整理簿を活用して事故防止に努めた。目標を達成した。
公務外の非行の防止	公務員であることの認識を深め、公務外非行を防止する。	職員がお互いに声を掛け合い、相談し合う雰囲気をつくることができた。気になる職員や行動を管理職に報告できる職場環境づくりに努めた。概ね目標を達成した。
人権に配慮した指導	人権感覚を高め、生徒の指導に活かす。	行動点検表や研修会を通じて、人権感覚を磨いた。教育相談コーディネーターを中心に職員がスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールメンター等と連携して生徒の相談体制を推進した。概ね目標を達成した。

○ 令和元年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和2年度に取り組むべき課題（学校長意見）

年度当初に不祥事防止の標語を職員から募り月間目標として職員に示すことで、法令順守、セクハラ・パワハラ、交通事故などに関して職員間で話題になり、事故防止に向けた意識を高めることができた。

毎朝の打合せでも管理職から時期に合わせた事故防止の啓発をし、全職員で事故防止に努めた。

神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料や綱紀保持の通知等の内容を職員に周知するとともに、毎月、職員会議後に事故防止会議を実施し、自己点検とともに事故の具体例や根拠となる法規を全職員で学び、大きな事故なく各項目の目標を達成した。

令和2年度に向けて、生活科学科が2年次にも設置されることから、特に「入学者選抜に係る事故防止」及び「適切な私費会計処理」を重点事項として、事故防止会議や研修で意識啓発し、課題解決や改善に向けての検討協議を実施する。